

経験語り、アドバイス

県ALS患者、家族会 医師、教諭らと交流

佐賀市

ALS (筋委縮性側索硬化症) 患者らの交流会が21日、佐賀市の佐賀県駅北館であり、病気についての相談や、精神的な克服方法を語り合った。県ALS患者・家族会(山本千恵子会長、6人)は同日、日本ALS協会佐賀支部への移行を目指し、準備委員会を立ち上げた。

会には患者や家族のほかに、医師や教諭など支援側を含め33人が参加。日本ALS協会の橋本操前会長(60)を囲んで交流した。橋本前会長と娘の佳代子さん(33)は「未婚の子どものは介護にタッチしないほうが、家族関係が保てる。親からすれば、子が結婚できないのではと思ってしまうことがある」と、

また「NECコミュニケーションもあり、看護師や作業療法士ら15人が、意思伝達装置などの操作を学び、パソコンなど動かす患者用のオリジナルスイッチを製作した(古賀真理子)」。また「NECコミュニケーションもあり、看護師や作業療法士ら15人が、意思伝達装置などの操作を学び、パソコンなど動かす患者用のオリジナルスイッチを製作した(古賀真理子)」。また「NECコミュニケーションもあり、看護師や作業療法士ら15人が、意思伝達装置などの操作を学び、パソコンなど動かす患者用のオリジナルスイッチを製作した(古賀真理子)」。



病気と向き合う方法などを語り合うALS患者や家族ら—佐賀市の佐賀県駅北館



リーフレットを手渡し認知症への理解を呼び掛ける森代表(佐賀市のゆめタウン佐賀)

認知症へ理解呼び掛け

家族の会ら 世界アルツハイマーデーで



国際医療福祉大学の矢崎義雄総長(佐賀市の佐賀新聞社)が講演する。

看護師活躍の時代に

国際医療福祉大 矢崎総長が講演

佐賀市

大川市 国際医療福祉大学の特別講演会(佐賀新聞社共催)が21日、佐賀市の

佐賀新聞社であった。同大の矢崎義雄総長が超高齢化社会におけるチーム医療の役割について講演、福祉の専門職を目指す学生や保護者ら約100人が聞き入った。

矢崎氏は、日本では法律上、医師でなければ行うことができない「医行為」が多くあるが、看護師などの役割を広げチーム医療を推

進めることで医療の質が向上すると説明。「これからは看護師などが医療現場でさらに活躍する時代になっていくのでは」と述べた。病気を治すための医療(急性期医療)も、支える医療(高齢者医療)もすべてが病院で完結している状態に問題があると指摘し、「地域で介護をする包括ケアネットワーク体制の

交通安全

園児らPR

佐賀市

秋の交通安全全県運動が21日からスタートし、県内各警管内

に高まる見通しを示した。講演後は会場で進学相談会もあった。(熊謙次朗)

でイベントが行われた。佐賀市のイオンモール佐賀大和では千布幼稚園の園児や市交通安全指導員、長嶋良泉警本部長ら約60人が集まり、チラシなどを配って交通安全を呼び掛けた。



会場では市職員が公共交通交通安全教室を行った。園児や来場者に向けて、紙芝居や腹話術を

千布幼稚園の啓発グッズを良泉警本部長のイオンエ

使いながらを渡るとまどを分かった。その関係者が物客らに布。「交通